NPO 法人　　第７８号

芦安ファンクラブ通信

南アルプス地域の自然を愛するすべての人達に対して、地域の人々との交流を通じた南アルプスの環境保全及び適正利用に関する事業を行い、もって、南アルプス市芦安地域の活性化に寄与する。

～芦安ファンクラブの理念～

特定非営利活動法人芦安ファンクラブ　　事務局　南アルプス市芦安芦倉 1578
TEL 090-4135-3193　FAX 055-288-2722　HP http://ashiyasu.com　Mail mail@ashiyasu.com

！特集！『環境省　国立・国定公園への誘客推進事業』を終えて

（コロナウイルス収束までの間の雇用の維持・確保を目的とする助成事業）

NPO 法人芦安ファンクラブ会長　　清水　准一

令和２年春、想定をはるかに上回る新型コロナウィルスの感染状況になり、環境省が山や自然に関わる従事者やガイドの雇用に救いの手を差し伸べてくれた。

当然ながら芦安ファンクラブとしてもこの期に関係者の生活維持に少しでも支援できればと思い、丁寧な選考書類の作成作業を進めた。当初は６月初旬の応募申請から約一ヶ月で事業が開始できると思い、県関係の諸許認可の調査や南アルプス市からの申請に向けて書類作成に遁走することから始まった。

しかしながら実際に審査作業の遅延などにより現場が動きだせたのは９月になってからになり、気候や作業条件の困難さが心配になった。メンバー的には当会関係者のみならず、山梨県山岳連盟のツワモノの皆さんにも関わっていただくことになった。事業内容は大きく分けて早川尾根コースの登山道整備と広河原園地の整備を済ませ、そこでオリジナルツアーを実施することになる。

早川尾根は戦後まもなく旧菅原村（現北杜市）の古屋五郎氏と菅原山岳会が汗を流してきた場所だけにその辺の歴史も理解しておく必要がある。
現在早川尾根小屋の管理をされている矢葺氏は快く応じていただき、小屋の歴史や関わりなどの貴重なお話を聞くことが出来た。会員の志気もにわかに高揚し始めてきた。

工具類の選定から指導標の作製が準備出来るといよいよ現地での作業になる。

現場には経年の倒木が登山道に巨体を預けていたり、ハイマツをはじめ木々の枝が行く手を阻んでいる。メンバーには木こりの心得がある人や体力や気力が優れた人ばかりで、無人小屋を利用しての長期な作業にも頼もしい活躍を展開してくれた。低体温症が心配されるような中での作業もがんばってくれた。

広河原の園地も見違えるようにきれいになり、山梨県植物研究会の蘓原先生による植物研修も大変有意義だった。小中学生手作りのかわいい樹名板や、江戸時代からの歴史を掘り起こした新たなオリジナルパンフレットも仕上がり、今後に向けてのツアーもたのしみだ。多くの方々にお力添えをいただき、ここに事業完了を迎えたことは、コロナ禍の厳しい状況下でもあきらめずに可能性を追求した輝かしい成果となり、今後の試練へ立ち向かう自信と勇気を確信するに至った。

様々な状況に的確に対応し見事に事業を達成した総監督を務めてくれた事務局の中島紫穂さん、ほんとに頑張ってくれてありがとう。関わった方々に心から感謝を申し上げ、ひと山超えた感慨と共に文を閉じます。

早川尾根に関する事業～調査・学習会・整備～

準備調査

望月　泰孝(芦安ファンクラブ)

早川尾根小屋を拠点として、２泊３日で広河原から仙水峠までの登山道の状況について調査をした。早川尾根小屋から仙水峠の間は、枝打ちを要するハイマツ等の灌木は約 3000 本を数えた。

（広河原～広河原峠）　広河原から林道を約 20 分で、古い標識のある西広河原沢出合いに着く。左岸の登山道を少し登り右岸に渡る場所で、登山道は崩壊、大きな岩や倒木で通行不能になっていた。右岸の登山道は荒れ、草が伸び放題で多くの倒木で寸断されていた。広河原峠の標識は老朽化している。

（広河原峠～早川尾根小屋）　尾根は樹林帯で展望はないが登山道ははっきりしている。所々に倒木があるが比較的歩きやすい。

（コース上のオアシス早川尾根小屋）　早川尾根小屋は老朽化しているが、令和３年から管理人が入るそうで少し手入れがされていた。高い尾根上には珍しく平らな場所で、小屋の前に 10 張ほどのテント場がある。北岳の展望が開け、きれいな湧水が流れている。

(小屋～アサヨ峰)　登山道は、手入れがされてないので広範囲にハイマツやハンノキ等が伸びて荒廃しており道がはっきりしない部分がある。急な岩場が２か所あり安全の為ロープの設置が必要。

（アサヨ峰～栗沢山）　ゴロゴロした岩の隙間を縫う登山道は、ハイマツ等の灌木で所々消える。アサヨ峰から北側に少し下った 15mの急な岩場は、ロープの設置が必要。

（栗沢山～仙水峠）　岩場の多い急坂の登山道、伸びた灌木の処理が必要であるが、仙水峠からアサヨ峰までは山小屋の人達が平素手入れしているので割合整備されていた。

（コース上で行き会った人々）　○夜叉神峠からアサヨ峰まで日帰りピストンのトレラン ４ 人パーティー／○アサヨ峰山頂で会った高齢単独者、仙流荘から自転車で北沢峠に一泊山行／○日向八丁尾根～鋸岳～角兵衛沢下降～北沢峠（泊）～仙丈ケ岳～アサヨ峰～甲斐駒ヶ岳～黒戸尾根を一泊二日のクライマー／○アサヨ峰手前で午後 ３ 時過ぎに上ってきた単独者は、その日のうちに甲斐駒から黒戸尾根を下山した。このトレイルランナーは、大門沢から白根三山を縦走してきたらしい。

早川尾根の今昔学習会

堀内　訓(芦安ファンクラブ)

私は山岳小説からまるでヒーローのごとく活躍する小屋番の姿を物語上で読んで胸をワクワクさせたことがある。しかし、今回の講演をしていただいた「矢葺敬造さん」は実在の人物で、山小屋のことはしかり、海外遠征にも積極的に挑んできた本当に、誇らしい人物だった。

まずは、南アルプスの一人の小屋番が大きな組織に頼らずに独力で、しかも当時としては未知の部分が多かった中国の未踏峰に挑み、登頂してしまった。そして、その輝かしい実績もマスコミにも公表することなく、自らの胸の内に秘めておく謙虚さに胸を打たれた。

また、米一升、キュウリ、ナス、味噌、缶詰２～３個を持たされ無人の早川尾根小屋に行ったり、七丈小屋では 80kg のボッカを行ったり、北沢小屋（仙水小屋）でも小屋番として、温かい笑顔で登山者を迎える一面も持っていた。

矢葺さんは南アルプスの静けさや豊富な樹木やおいしい水に魅され、自らの夢をひたすら追い求め続けた人物である。

昨年、早川尾根が整備され、歩きやすくなったようだ。来シーズンは是非、尾根道を歩きながら、到底矢葺さんには追い付かないが、南アルプスの北部の山塊を満喫したいと思っている。

早川尾根登山道整備

井上　佳之(芦安ファンクラブ)

20 数年振りの夏でした。20 代前半で山小屋生活になり、以来ずっと夏知らずに過ごしてきた私にとって、昨年の夏はなかなか厳しい暑さでした。そのような中、小屋の点検や登山道整備は仕事とは言え“避暑地に行ける”気分で楽しみの一つにもなっていました。その中でも早川尾根登山道整備は、とても有意義なものでした。

初日朝５時に作業隊が芦安に集合、伊那市長谷経由で林道に入り、途中平右衛門沢から小屋へと徒歩で向かいました。今回の作業隊は、望月・小林・安藤・川崎・そして長衛小屋の井上と千葉の６人構成。芦安から約４時間かけて小屋に到着、軽く朝食をとってから初日の作業へと向かいました。

小屋―仙水峠―栗沢山―直登コース―小屋のルートを中心に整備を進め、倒木の除去・ルートマーキング・刈り払いを行いました。栗沢山頂に必要な資材を残し１日目の作業終了。小屋へ戻りシャワーを交代で浴び、夕食を済ませ翌日に備え早めに消灯。

２日目は気温が低く強風も予想されていたので、防寒対策を整えて栗沢山へと向かい作業開始。稜線では気温５℃・風速１０メートルと、体感的にかなり寒く低体温の危険を感じる程でした。小林・望月・川崎が先行して広河原作業隊と合流。井上・千葉・安藤の３名で刈り払いとルートマーキングを行いながらアサヨ峰まで作業をし、鎖設置ポイントで先行部隊と合流。交代でハンマーを打ち、無事に鎖を付けることができました。

アサヨ峰までの作業を終え、小林さんは広河原作業隊の手伝いに残り、ほかの長衛隊は栗沢の残置資材を回収し小屋へと下山。後に小林さんも小屋へ帰投し無事作業終了。冷え切った体に薪ストーブの暖かさがやさしく、なんとも心地よかったです。

３日目は、長衛小屋２名は仙水峠作業起点に杭を打ち今回の登山道整備は終了。他４名は林道を山梨方面に徒歩で移動し広河原作業隊と合流、作業終了。“避暑”ではなく“極寒”の作業になりましたが、今まで正式な整備の入らなかった早川尾根を環境省事業として作業できたことは、小屋で働く者としても嬉しく、また芦安ファンクラブも頼もしい存在だと改めて実感しました。

吉澤　斉大(芦安ファンクラブ)

まだ薄暗い夜明けより少し前、芦安ファンクラブ事務所の前に早川尾根登山道整備に取り組むメンバーが集合しました。車に仕事道具を詰め込み出発。僕は山梨県側からの作業班だったので広河原に向かいました。テント泊装備に小型とはいえどチェーンソーも含めた荷物は体に響く重荷でした。

早川尾根小屋を拠点に仙水峠までの区間の登山道で、歩くのに支障をきたす倒木や生い茂るハイマツの枝払いをするのが僕の班の仕事でした。木こりの大先輩でもある五十川さんは倒木やかかり木の処理をする際に、少しだけ木を眺めてからチェーンソーを回し始めます。不安定な木の処理は決してマニュアル通りにはいきません。将棋のように、二手、三手と先読みをしなければ不測の事態が起きてしまいます。五十川さんの、確実に木の状況を見極め作業する姿は、目を見張るものがありました。ハイマツの枝払いはとてつもない本数でしたが黙々と作業を進めました。この日は、あいにくの天気で雨と風がとても強く、参加された皆様は本当に厳しい環境での作業だったと思います。

登山道を整備するという事はとても労力がかかると改めて実感しましたが、この登山道を歩いた方が素晴らしい景色に感動する姿を考えると、事業に関われた事を誇りに思います。

これからもこの道が維持されて、たくさんの登山者に歩いて、素晴らしい南アルプス北部の景観を見ていただきたいです。

広河原に関する事業～学習会・調査・整備・ツアー～

広河原園地と自然学習

花輪　初代(芦安ファンクラブ)

南アルプスの北岳登山口にある広河原。そこを足掛かりに北岳・仙丈ケ岳・鳳凰三山と歩く人は少なくないと思う。

広河原のバス停から長い吊橋を渡り、右手に広河原山荘を見て北岳へ向かう人は多々いるだろうが、そこから少し上がった所に「園地」という看板を見て訪れる人は少ないと思う。その園地の方へ足を向け短めの吊り橋を渡り５分ほど歩くと、そこには静寂な、時には小鳥がさえずり、巨木が生きる世界が広がる。

2020 年も半年以上過ぎてしまった頃、その園地で植物自然研修が開かれた。今年は新型コロナウィルスが世界的に流行し、感染拡大防止のため登山自体もままならない年である。私にとっては今年初めての広河原入りである。今年の北岳に会えると思うと嬉しくてたまらないし、お天気も私の気持ちに加勢してくれる。それに目的は植物の勉強会である。沢山学ぼうと意気盛んになる。

専門の先生に付いて一周 30 分程のところじっくり時間を掛けて回り、名前を知り、由来を知り、環境を知り、時にはゲームを交えて連想したり、と場所を移しながら進んでいった。時間はあっという間に過ぎて行ったが学べるという楽しさをしみじみと噛みしめた。自分の足で歩いて出会えた植物たちは愛おしいものである。足元の雑草でさえ可愛いと思える。

広河原を訪れた人には是非とも園地へ足を運んでほしいと願う。無理に植物の名前を覚える必要はない。そこに身を置くだけでいい。ゆったり楽しんだら気分新たに元の世界に帰って行けばいい。

ガイドコンテンツの準備

鈴木　一江(芦安ファンクラブ)

広河原園地に、ガイドコンテンツの準備調査に入りました。ゆっくりと時間をかけて、園地にある素材をみんなで確認しながら歩いていきました。途中途中では、立ち止まり、
「これは、何だろう？」
「これ、気持ちいい」
「いいにおいがする」
「写真スポット！」
「こうしたら、おもしろい」
「この先は、どうなってるんだ！」
なんて、話しながら…。それぞれの個性的な感性全開で、森に浸っていきました。

今回の調査は、ルート整備の下見も兼ねていたので、わかりにくいところは目印のテープもつけながら歩きました。(その後、整備の皆様、ありがとうございました。)

一周してくるとネタがいっぱいで、「あの場所では、こんなことしたい」とイメージがそれぞれで湧いていました。

そんな中から自然と“感性”“五感”“気づき”“発見”“きっかけ”“こたえは１つじゃない”“歴史とつながる”“レクチャー型じゃなく、伝わる”などのキーワードがあがり、ガイドツアーのプランが決まっていきました。

メンバーの多くが、インタープリテーションの研修を受けていて、事前に共有体験があったことは、同じ方向に向かっていくのに、とても大きかったと思います。何度も話し合い、もう一回下見にも行って、形が出来上がっていきました。

今回のこれで完成ではなくて、“ここがはじまり”“とにかくやってみよう”という意識がみんなの中にあって、前向きに考えて進めたことがとても力強かったと思います。

広河原園地整地整備

岩井　友子(芦安ファンクラブ)

コロナ禍の中で、思うように活動ができずにいましたが、広河原園地の整備に参加しました。

広河原園地の整備では、男性会員の皆さんの力量に圧倒されました。静寂な森の中に、大型機械やチェーンソーの音が響き渡り、時おり木と木を行き来する小鳥の姿が目に入って来ました。

私なりに思ったことは、人の手を少し加えて、自然の力を信じて、人の力・自然の力のバランスで、森を守っていく事かなと・・・。

最後に、作業に参加することが出来て良かったです。又、参加された会員の皆様、お疲れ様でした。

広河原キヅキツアー　～ゼロから始まった「園地」のツアー～

堀内　訓(芦安ファンクラブ)

「みなさん、楽しみにしていてください……！」「何をって？」と、思っているでしょう。それはですね。広河原にある「園地」を基地としたツアーが始まろうとしているのです。

来年の夏山シーズンに合わせて広河原山荘が現在地からインフォメーションセンターの近くに移設することに伴って、「もっと広河原を知ってもらおう。」「多くの方に広河原に来てもらおう。」「高い山に登るだけでなく、気軽に高山を楽しんでもらおう。」という思いから、ファンクラブの有志が園地の整備、プログラムの作成に関わっています。

そして、今回が初めてのツアーの実施になりました。なにぶん、ゼロから始まったプロジェクトです。まだまだ試行錯誤の段階ですが、これからもスタッフ一同、少しでも良い企画を作ろうと頑張っているので、応援をよろしくお願いします。

西村　正人(芦安ファンクラブ)

広河原の歴史を学びながら、大自然の中で何かを感じ気付くことを体験するというコンセプトツアー。紅葉の秋、小中学生を含む参加者で、新型コロナ対策を図りながら広河原山荘で宿泊する１泊２日ツアーを開催しました。

１日目は、小雨の中、インフォメーションセンター周辺の散策と、江戸時代に江戸城修復のために材木を切り出した木こりの話や広河原開発・登山の歴史を勉強。

また、屋外の真っ暗闇の中で人の目の順応力体験を行いました。しばらく暗闇の中で目を開けていると次第にボーッと景色が見えてきます。次に片目でろうそくの灯りをしばらく見つめた後、ろうそくを消すと右目と左目で周りの見え方が違う不思議な感覚を体感できます。周りに灯りの無い山の中だから出来る面白い体験でした。

２日目は気持ちの良い快晴の空とくっきりとした景色の中、まぶしい朝日が暖かい朝でした。大樺沢に架かる吊り橋から、快晴の青空に前日の雨のおかげで真っ白に雪化粧した北岳の眺望が素晴らしい。

ぬれた落ち葉を踏みしめながら広河原園地の森の中へ。さらに道を外れて、足下に注意しながら登っていくと、小さな３つの小川が一つに合流して下の方に流れています。さらに登って行くと大きな岩の下から清水が湧き出しているところを発見。

この水が野呂川に注ぎ、その下流で早川になり富士川に合流して太平洋に繋がっていることが不思議に感じます。

森の広場で、「葉っぱ拾い」と「モール人形額縁アート」にチャレンジ。「葉っぱ拾い」は、思い思いに５枚の葉っぱを拾ってきて、どこが違うかを発表する。同じ種類の木でも色や虫食いなどどこかが違う、全く同じものなど一つも無いことに気付きます。

「モール人形額縁アート」は、前夜モールで作った人形を自分の分身に見立てて自然の中に置き、遊ぶ姿を創造する。白い額縁を通して、題名を付けると一つのアートが出来上がります。想像力豊かで面白い発表会となりました。

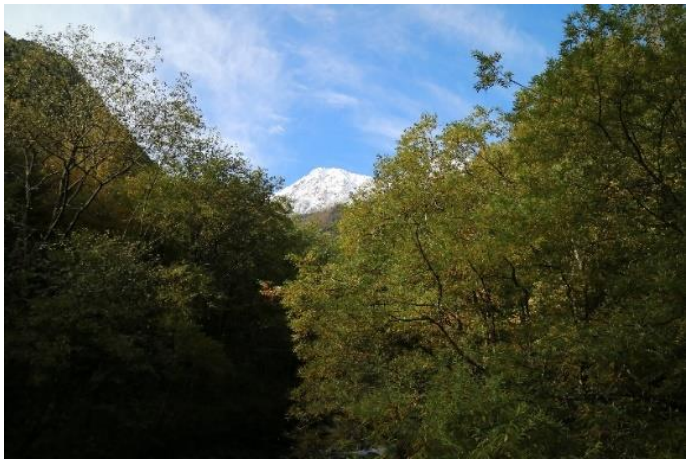
カツラの巨木の下でコップに葉っぱを集め、マンニトールの甘い“香りの乾杯”。広葉樹と針葉樹の原生林をいろいろなキノコを発見しながら散策、心地よい森林浴を楽しむことができました。

最後に、全員に紙を配り二日間で印象に残ったことを絵や文字で表してもらいました。山の景色、紅葉と落ち葉、木の生命力、自然の摂理、広河原から木を切り出した歴史、森での遊びなど、みんなそれぞれ、強く印象に残った所が違うことに気付かされました。

私は二日目のガイドを担当させて頂きましたが、ご参加頂いた方々に心から感謝申し上げます。

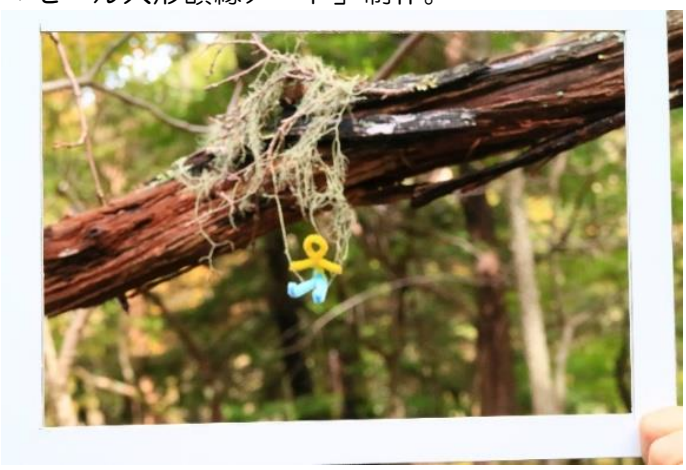
１日目　雨の中、広河原の歴史を学ぶ。

２日目　朝、雪化粧の北岳を望む。



山の中へ、足下注意！。

「モール人形額縁アート」制作。



カツラの葉っぱで“香りの乾杯”。

倒木ベンチで。

皆様、有り難うございました。

広河原歴史学習会

五十川　仁(芦安ファンクラブ)

奇想天外と言うのでしょうか??

2020 年山のシーズンが始まるぞーーと思いきや……。世界中がおかしな事に。未だ猛威をふるい、暴れているコロナウィルスです。山小屋の営業も中止となり、新生御池小屋スタートで気合充分、準備万端で迎える所でありましたが！出鼻を挫かれてしまいました。そんな中でも、会長を始め清水工設、芦安ファンクラブ事務局、市役所、環境省、他、関わっていた方々のご尽力により、山小屋パトロールや登山道整備等による臨時営業ができました。これは小屋営業の予行練習にもなり、実に良かったです。

そして、早川尾根、広河原峠の登山道整備、道標設置など、環境省　国立・国定公園への誘客の推進事業を進める事となり、非力ながら、自分も参加させて頂きました。感謝致します。

その事業の中の１つでもある、広河原現地歴史学習会が２日間開かれると言う事で、歴史等の講義のある１日目に（南アルプスの歴史や山師の話を、次世代に引継ぐ思いもあり）参加させて頂きました。

始めは広河原周辺のお話があり、甲斐駒ヶ岳や早川尾根の発展に大きく関わっていた、菅原山岳会の方々が広河原の小屋にも関わっていたのだと知り白州の方からご苦労様です！勢力的だったんだな～と感じました！

広河原周辺を散歩しながらのお話の中では、伊勢湾台風時の土砂災害、センター内にも展示してありますが、砂防堰堤などを入れ森が戻って来ている所などのお話が聞けました！！人間は自然を壊すばかりではなく、手を入れて自然を戻すこともしているんですよね！！広河原周辺のガイディングに使えるお話だな～と思います。

そして今回の歴史学習のメインでもある、中村儀助のお話にはいるのですが。自分も、現代の木こりとして、ワクワクで昔の木こりの有様を聞かせて頂きました。

時は江戸時代末期辺りのお話で、幕府の依頼で木曽の木こりに依頼が入り、芦安、早川にやって来て木を切り出し、江戸に材木を納めるお話です。

今の時代でも、和歌山、木曽、飛騨辺りは木こりのメッカなイメージがあります。儀助さんの時代は、下界の村から何日もかけ徒歩で上がり、何日もかけ斧で木を倒し、材木を何日もかけ材木を敷いた斜面を滑らせ川に付け、材木が貯まったら、何日もかけ川の水を堰き止めるダム的な物を作り、放流の勢いで何日もかけ海まで運ぶ。。。果てしないです！！そして、めちゃくちゃ楽しそうです！！そして北岳の八本歯辺り迄、昔は巨木が生い茂っていたのだとロマンを感じます。。儀助さん達がいっぱい切っちゃったから、ガレちゃったのかな～((笑))

時代変わって、現代の木こりは、作業によって様々ですが、木材を搬出する作業ですと、車で現場近く迄行き、ザウルス(林業用ユンボ)を使い道を入れ、チェンソーで木を伐倒し、造材し、（ハーベスターと言うユンボは伐倒も造材も出来ます）材木を、グラップル(林業用ユンボ)を使ってホワーダー（キャタピラトラック）に積み込み貯木場迄出し、そこからトラックで運び出す！！という流れになります。儀助さんと同じ大樺沢や八本歯辺りが現場だとすると、架線(空中にワイヤーを走らせてワイヤー自体が前後に動く仕組み)を引いて木材を広河原迄下ろし、そこからトラックで運び出す！という流れになります。実にスピーディーです。150 年程で PC やスマホなど人間が使う道具の進化に驚かされるばかりです。。時代が進化し暮しやすくなっていますが、昔の人間みたく、地球に生かされている事を認識し、自然に敬意をはらって生きて行きたいと思う。。。。今日此頃です。

ハイキングレスキュー講習会 ～習うは一生～

小林　成正(芦安ファンクラブ)

「あれ～できないな～」ひさしぶりのザイルワーク、頭ではわかっているのになかなか上手くいかない。ハイキングレスキュー講習で、いうことをきかないザイルと悪戦苦闘、でもなかなか楽しい。

あらゆる面での知識は一生かかっても、学び尽くせるものではありませんが、基本は是非とも身につけたいものです。常に学ぶ心が重要です。ぜひとも次の講習会にも参加したいと思っております。

夜叉神峠日の出ツアー

富山　繁樹(芦安ファンクラブ)

「白根三山（北岳・間ノ岳・農鳥岳）のモルゲンロート(平たく言えば「朝焼け」)を眺めに行きましょう」、というお誘いであったと記憶している。野呂川の渓を隔てて白根三山の真東に位置する夜叉神峠はその三山の絶好の展望台。季節を問わず多くの登山者、ハイカー、写真を撮りに来る方が訪れる。

１月１０日ＡＭ４：００、暗闇の夜叉神の森登山口に十数名の寡黙な一団が。ヘッドランプを装着し靴紐を締める。銀髪の男性の先導で集団は登山道へ。闇の中、鼻水を啜る音が小さく響く。

九十九折りの山道を登る。「コロナ禍に於けるツアーの有り様」について叱咤されつつ集団は進む。

途中の切開から芦安、甲府盆地の夜景がジュエルに輝く様を眺め嘆息。吐く息が白い筈だが暗くて見えない。夜明け前の薄明りの下、峠へ辿り着く。あー北岳！は白い帳の向こう側。

手分けして仮設トイレ、手指消毒物品等を支度して、後はひたすら耐えて待つ。

西向きの大展望から東向き、富士山と日の出に切り替える。ひたすら「激」な寒さに耐えて待つ。体感温度－18 度（Ｓ嬢談)。待つ事小一時間、盆地の東を縁取る山並みの向こうから曙光が放たれる。「春はあけぼの」ならぬ新春の曙。一年のもろもろの願いを込めて万歳三唱！！峠を後にする。

「環境省 国立･国定公園への誘客推進事業」

あしやすやもうど

蘆安山人のススメ

～開拓の道を守り、歴史、自然を伝える～を終えて

補助事業担当　中島 紫穂(芦安ファンクラブ)

この壮大な事業計画、正直本当に出来るのだろうか、、、。

計画書作った張本人がこんなことを思っていたと知ったら、皆さんからお叱りを受けるかも知れませんが、採択直後は実はそんな気持ちに駆られていました。初めての大事業、不安でいっぱいでした。

しかしそんな気持ちはすぐ吹き飛び、歴史に残る事業を終える事が出来ました。外部協力者の皆さま、行政の皆さま、そしてファンクラブスタッフの皆さん本当にありがとう御座いました。

今回の事業コンセプトは「築きと気付き」

今まで見過ごされ放置されていた「事」、「物」、「場所」の磨き上げの為に再整備を実施して築く。自然の成り立ちや歴史を知り気付く。そして「事、物、場所」を伝承して行ける基礎を作る。そこに関わる人材を増やしていく。そんな思いで選んだのが早川尾根と広河原園地でした。

そしてこの事業の集大成として広河原園地の散策マップを作りました。今後の園地の呼び名は「原生の森」です。整備されたこの場所を軸に今後企画を沢山実施していきますのでどうぞご期待下さい!

環境省　国立・国定公園への誘客推進事業

準備作業	早川尾根整備準備調査
	広河原園地準備調査
早川尾根整備	広河原峠入口～広河原峠間倒木除去作業
	広河原峠～仙水峠間刈り払い、倒木処理、クサリ、ロープ設置作業
広河原園地整備	広河原園地整備、清掃、草刈り倒木除去作業
事前学習	広河原園地現地自然学習会
	早川尾根歴史学習会
	ハイキングレスキュー講習会
ツアー	広河原歴史学習会
	広河原園地キヅキツアー
	夜叉神峠日の出ツアー